

## 九条はらまち

福島県南相馬市「はらまち九条の会」No.222

2013(平成25)年 8月15日(木)発行



○1945(昭和20)年8月15日の終戦から68年。日本武道館での全国戦没者追悼式の安倍首相の式辞は、1993年の細川護熙首相以来の「アジア諸国への戦争の加害責任」や「不戦の誓い」には言及せず、ただ国内戦没者の追悼だけの、偏狭な歴史認識を表すもので終わった。

### 「米国の戦争に引き込まれたい」と本当に思っているのか」

アメリカの社会派映画監督 オリバー・ストーン監督(66)

日本の憲法改正の議論が政権側から提起されているが、この動きをどう思いますか？



「日本の改憲は、日本が米国との軍事的協力関係を強化し、米国と軍事行動を共にすることを意味するのであれば、それはとても危険な道だということだ。日本の国民は米国の戦争にさらに引き込まれたいと本当に思っているのか。私はそうは思わない。」(2013.7.26「朝日新聞」の質問に答えて)

○オリバー・ストーン<写真>は、1946年生まれの米映画監督。ベトナム戦争に従軍し、その体験を元にして、社会派監督として『プラトーン』(86年)、『7月4日に生まれて』(89年)でアカデミー監督賞を2回受賞した。

○昨年、第2次世界大戦前夜の1930年代からオバマ大統領までの現代史を、ドキュメンタリー「もうひとつのアメリカ史」(全10本)に制作。特に日本への原爆投下には、当時の米政権内でも反対は多く、原爆を使わずに日本を降

伏させることができたのにあえて使用した、という経緯を明らかにして注目され、BSでも放映されました。

○8月4日から広島を初めて訪問。広島平和記念資料館、平和記念公園や原爆ドームを訪ねた。

「いまここであの日の瞬間、爆風を感じている」「瀕死の被爆者がさまよっていた」と、脳裏に浮かんだイメージを表現。さらに若い世代には核廃絶のために、「広島についてもっと学ぶことだ」と。長崎原水禁大会に出席、沖縄も訪問。

●日本って、こうした「外からの刺激」や「外圧」でしか、改革や変わることができないのでしょうか。

### 小出裕章先生講演会 <講演会要旨・会報No.217>に訂正があります

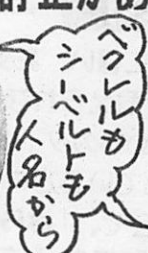
小出先生からのご指摘がありました。次のように訂正をお願いいたします。会報No.217の表ページの右側・⑤の4行目、「4号機の爆発で放出されたものだけでも」は削除して、「この政府の評価は過小評価で」と書き直す。また9行目の「実はその千倍も大量に放出しています」は、「事故当時はその一千万倍も放出していました」です。事務局のミスですが、お詫び申し上げます。

#### ▼訂正した文は

⑤福島原発事故についてIAEAへの報告書では、広島型原爆168発分の、主にセシウム137を含む放射性物質を放出したとあるが、この政府の評価は過小評価で、その2倍から3倍の放出があったと考えられる。そしてなお、4号機内にある放射性物質は原爆1万数千発分に相当します。さらに現在も放射能物質を毎時千万ベクレル、事故当時はその一千万倍も大量に放出していました。



アントワーヌ・アンリ・ベクレル  
(1852～1908年)  
放射線を発見したフランスの物理学者。



ロルフ・マキシミアン・シーベルト  
(1896～1966年)  
放射線防護学の研究に多大な功績を残したスウェーデンの物理学者。

ベクレル 放射能の強さを表す単位。  
1秒間に1個の割合で原子核が崩壊する時の放射能の強さを、1ベクレルとする。  
シーベルト 放射線の人体や生物に対する被曝の影響を表す尺度。100レム。  
1シーベルト=1000ミリ(m)シーベルト  
=100万マイクロ(μ)シーベルト  
1マイクロ(μ)シーベルト  
=0.001ミリ(m)シーベルト  
=0.000001シーベルト



## 悔しき表現

### 被災地の相双地方が舞台 震災と原発事故の苦悩を訴える

### 倉本聡の新作「夜想曲・ノクターン」が初演

倉本さんは南相馬市の詩人若松丈太郎さん（本会会員）の詩との出会いがこの作品創作のきっかけと話されていて、劇中の「ピエロ」のせりふには、若松さんの詩が織り交ぜられています。震災や原発事故を風化させてはいけない強い願いを込めていて、再来年には南相馬市での公演計画もあるそうです。

●「小高九条の会」事務局長の中里範忠さんご夫妻は、原発事故で今年5月、北海道の富良野市に移住されました。

●中里さんはこの『夜想曲』が、自分たち原発被災民の怒りや悔しさを訴える舞台であることを知り、公開稽古にも通い、8月10日、富良野演劇工場の初演に駆けつけました。

◀写真▶は、上演終了後、倉本聡さん（右）にねぎらいの言葉を掛ける中里さんと妻成子さん。（2013年8月11日『福島民友』より）

### ＜会員からの手紙・電話＞



□「6月22日の小出裕章先生の講演会では、「放射能が高くてもう南相馬市には住めない」というような深刻な話でした。でも以前に南相馬市立病院の若い医師坪倉正治先生のお話を別の所で聞きましたが、「産地よりも、放射能を取り込みやすい食物に気がついたり、除染に努めれば生活できる」というようなお話で、少し希望を感じていました。一体私たちはどの先生のことを信じていいのか困っています。子どもがいるので大変心配です。結局放射能のことは誰にも分からないのか、本当はどうなのか、政府・国・東電の発表はウソばかりで無責任で信じられない。自分で判断するしかないのか。」（会員・40代・男）

□「北朝鮮や中韓国を敵視して、政府は戦争を煽っています。でも政治家は戦争には行かない。自衛隊が足りなくなり徴兵制になり若者が戦場に行くようになっていいのか？」（会員・60代・女）

□「歴史的な大震災と原発事故について、被災や避難や体験記録を南相馬市当局や博物館などで出版されているのか、編集中心なのか？鹿島区の場合は鹿島文化財愛好会が『かや原』第5号震災特集で体験をまとめて発行しています。警戒区域だった小高区では全くそんな話は聞かれず残念です。原町と合併したことが失敗だった。」（小高区会員・60代・男）

□「昨年、靖国神社の中にある遊就館に行きましたが、戦争を美化している博物館で大変驚いた。若者が展示物を見て、戦争にあこがれたら恐ろしいことです。」（原町区会員・70代・男）



### ＜事務局より＞



◆本当に暑い。狂気の暑さです。仮設住宅で耐えられないという声、原発収束のためあのタイベック（防護服）で作業されている方々のことも心配です。

◆全国の九条の会で、「はらまち九条の会」のホームページをご覧になる方が増えていて、会報への問い合わせも多く、特に「私の戦争体験」を元にして新聞記事や論文も書かれています。なにせ、事故原発に世界一近い「はらまち九条の会」です。9月28日（土）郡山市、全県九条の会でも本会の活動を報告します。

◆野馬追い祭も無事終わりました。相馬人としてやはりホッとします。祭にも全国から支援や励ましを寄せられ、有難いことです。

◆8月15日終戦の日の夜、NHKテレビ「激論！ニッポンの平和」で、作家半藤一利さんの「日本は回りが海に囲まれ、攻撃されたら防ぐことが不可能な国です。武力で平和は守れないし、日本は外交力をつけるべきだ」との発言。さすがです。（山崎）



### ＜「はらまち九条の会」事務局連絡先＞

○会長：平田慶肇 TEL0244-24-1211 ○石田賢二 TEL0244-22-4037 ○早坂吉彦 TEL0244-22-0326  
○事務局長：山崎健一（神奈川県に避難中） TEL090-7527-5453 Eメール：yamazakiken1@gmail.com  
○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL0244-22-7511・FAX26-0892  
○番場恵子 TEL0244-22-0715 ○ホームページ担当：大浦祥見 TEL0244-24-0704